

第43号

編集・発行
 富士見市日中友好協会
 富士見市下南畑
 3962-33
 (080)5455-8944
<http://www.jc-sf.com/>

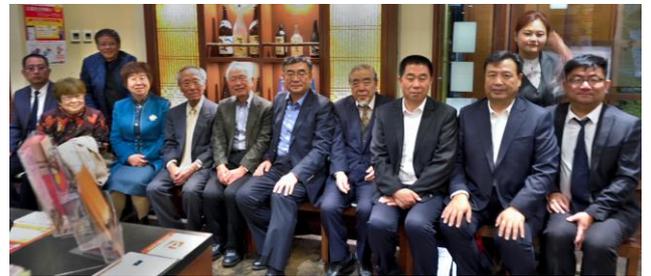
忻州市政府訪問団一行が来富・交流

＝ 2024年12月17日(火) ＝

2024(令和6)年12月17日(火)、山西省忻州市政府訪問団一行が富士見市を訪問しました。団員は忻州市人民政府の李建国(リ・ジエングオ)市長、忻州市人民政府外事弁公室の李秀雲(リ・シウユン)主任、忻州市城市管理局の劉雲飛(リウ・ユンフェイ)局長、忻州市忻府区人民政府の孫曉磊(スン・シアオレイ)常務副区長、忻州市人民政府外事弁公室の辛啟立(シン・チーリー)科長、忻州市忻府区人民政府弁公室の王利軍(ワン・リージュン)副主任の6人です。

当日、訪問団は早朝に忻州市を出発したにもかかわらず飛行機が遅れて星野光弘富士見市長と懇談することはできませんでしたが、協会が準備した歓迎会には皆さん疲れた様子も見せずに出席され、岩本喜直会長(当時)はじめ参加した協会理事と楽しく懇談し、親交を深めることができました。

忻州市の李建国市長によれば、訪問の目的は大きく二つありました。一つは忻州市が観光都市として飛躍するための情報を得ること。忻州市には世界文化遺産の仏教聖地・五台山だけでなく、泉質の良い温泉があるので、観光客を呼び込むためのノウハウを日本のレジャー産業に学びたいとのことでした。



▲ 前列右から5人目が李建国忻州市長

もう一つの目的は富士見市の訪問です。李建国市長は「1999年、上陽村に希望小学校を建設し、以来20年以上にわたって熱心に支援や交流を続けてきた富士見市の皆さんに、初めて忻州市から会いに行くという忻州市の歴史上でも大きな意義を持つ訪問」だと、市長自ら富士見市訪問を希望したそうです。残念ながら2020年に閉校となった上陽希望小学校ですが、「中日友好のシンボルとしての学校を生かす方策を考え、今後も永く富士見市と交流を続けていきたい。」と自らに言い聞かせるような、そして訪問団員の使命として言い聞かせるような李市長の話が印象的でした。

【紫関 伸一】

恭賀新年

富士見市日中友好協会

会長 紫関 伸一

昨年はコメに代表される衣食住に関わる諸物価の高騰をはじめ、地震、集中豪雨、山火事、クマ騒動など様々な事態が私たちに襲いかかってきた一年でした。加えて日中間の対立が表面化して長期化の様相を呈しているほか、世界各地で大小の紛争が日々ニュースとして報じられました。

残念なことは、地震を除いたこうした出来事の原因に直接、間接に人間の活動が大きく関わっていたことです。否、地震など自然災害の被害に遭われた方々もその例外ではありません。多くの人々の善意に感激しつつも、制度としての救済策の不十分さに今なお苦しめられています。どうやら私たちは、地球に人類が誕生し数百万年にわたって命をつないできた意味を改めて深く学び直す必要があるそうです。

富士見市日中友好協会は今年の秋、結成四〇周年を迎えます。これまで協会を支えて下さった会員及び支援者の皆様に心からの感謝を申し上げます。そしてこの記念すべき年を迎えられたことを共に喜び合いたいと思います。

協会は結成以来様々な状況の変化の中でも「日中不戦、二国市民の友好交流」の旗を高く掲げて歩んでまいりました。この先どんなことが起きようとも私たちはこの歴史に学び、大切に守り抜いてまいります。引き続き皆様のお力を協会にお寄せく

第39回 協会年次総会 並びに 新春の集い を開催

＝ 2025年2月2日(日)
富士見市立針ヶ谷コミュニティセンター ＝

2025年2月2日(日) 当協会の年次総会・新春の集いを開催しました。総会には県協会の大上忠幸事務局長を来賓に迎え、23名の出席者の賛成多数により総会議案は可決されました。今年は役員の変更があり会長が岩本喜直氏から紫関伸一氏に代わりま



▲ 年次総会で挨拶する大上忠幸県協会事務局長

した。

その後会場を3階の展示ギャラリーに移し「新春の集い」を開催。星野光弘富士見市長をはじめ多数の来賓の方々の参加をいただきました。二胡の演奏に続いて県協会の田中寛名誉会長の乾杯で始まったパーティーでは、総数52名の出席者で和気あいの楽しいひと時を過ごしました。

【藤井 孝容】



▲ 乾杯する田中寛県協会名誉会長



▲ 恒例の文化行事は二胡演奏

ふじみ野小学校 と 迎澤街小学 の 作品交流がスタート

＝ 2025年2月～3月 ＝

昨年は学校紹介という形でお互いの学校の様子を確認し合いました(会報第42号に詳報)。2025年からはいよいよ本格的な作品交流の始まりです。

まず2月にはふじみ野小学校の3年生が42点のカードを送りました。今までは5年生が主体でしたが、今回は中国から転校してきたばかりの3年生の児童が活躍できるようにと、同学年の児童が作品制作をしました。その転校生が期待どおりに力を発揮した結果、多くの児童が「你好」などの言葉を作品中に表わしていました。



▲ ふじみ野小学校 3年生の作品



▲ 迎澤街小学 3年生の作品



▲ 迎澤街小学 5年生の作品

(3面に続く) ➡

➡ (2面から続く)

そして3月には迎澤街(インザージェ/げいたくがい)小学から学校行事の「科技節(カージージェ)」と「柿子節(シーズジェ)」をテーマにした絵89点が、両校の作品集とともに送られてきました。「科技節」とは 科学技術の新しい発想で未来を切り開く精神の火を灯そうという行事です。宇宙から水滴時計まで、幅広い領域で生き生きとした表現が見事でした。

「柿子節」は柿の収穫に感謝するとともに、認識する力、感じ取る力、鑑賞する力などいろいろな力を身につけ、学生たちの創造力を高めることを目的としています。この行事は特色ある迎澤街小学の文化を創り出しているそうです。

作品集は初めての作品交流の記念として山西省人民対外友好協会が制作し、送ってくれました。

【紫関 伸一】



▲ 送られた作品集

2025年度 日中文化交流講座 を 開講

＝ 2025年4月1日(火) 富士見市立鶴瀬西交流センター ＝



▲ 講座開講式(鶴瀬西交流センター)

毎年4月の第1回の授業の日は新年度の始まりとして、5時クラスと7時クラスの受講生が顔を合わせて、『一年間、お互いに学んで行きましょう!』と確認し合います。

今回は新しく会長になられた紫関さんが、富士見市日中友好協会の長い間の中国の上陽希望小学校との交流の経過等を話されました。

私たちは協会主催で中国語を学んでいますが、あらためて協会にはいろいろな活動がある事を感じました。そして、この教室を通して、語学だけでなく歴史文化や現在の中国の様子等、理解していけたらと思いました。 【小嶋 やよい】

富士見市国際友好協会 総会 と 交流パーティー

＝ 2025年5月10日(土) 富士見市立針ヶ谷コミュニティセンター展示ギャラリー ＝

富士見市日中友好協会は富士見市国際友好協会の団体会員です。令和7年度富士見市国際友好協会定期総会と懇親会が5月10日(土曜日)に開催されました。令和6年度の事業報告、収支決算報告、令和7年度事業計画(案)、収支予算(案)、協会規約の変更

について(案)などが出席者の挙手多数で可決・承認されました。

総会終了後には懇親会が開かれ、参加者がこれまでの活動などを報告しあって楽しく交流しました。

【侯 紅葉】

第11回チャイナサロン**『私が日本と結んだ縁』・・・王凱さんを迎えて**

＝ 2025年6月22日(日) 富士見市立鶴瀬西交流センター集会室 ＝

2025年6月22日鶴瀬西交流センターにおいて王凱(ワン・カイ)さんを迎えてチャイナサロンを開催いたしました。王さんがお話しされた概要を以下にお知らせします。【加藤 清】



▲ 熱心に聴く参加者

1980～90年代の中国では日本製の文化や電化製品、テレビゲームが広まり、それに触れる中で日本語を学びたいという思いが芽生えました。そして20歳になった私は本格的に学ぶ決意を固め、故郷の鄭州を離れて大連外国語大学へ進学しました。大連で日本語を学び、日本文化をさらに吸収して2007年に卒業しました。

当時の大連は豊富な日本語人材と優れた貿易優遇政策を背景に、多くの日本企業が業務をアウトソーシングする際の第一選択地となっていました。私は2007年から2016年までの10年間、大連ソフトウェアパーク(软件园)で働き、日本式の仕事術——「報連相」や原因究明、進捗管理のシステム化などを習得しました。

2017年からの日本生活では、多様な美しさに触れ感動を重ね、新たな航海の始まりを感じています。中国では、日本に行ったことのない人が人口の大多数を占めています。日本を訪れたことのない人が大多数を占める中、私は日本への誤解を抱く人々に真実の日本を伝え、両国交流を促す架け橋となることを目指しています。

ピースフェスティバル2025 平和の鐘を鳴らそう

＝ 2025年8月15日(金) 市役所ロータリー広場 ＝

終戦記念日の8月15日(金)、市役所にある平和の鐘を皆で撞いて、改めて平和への誓いを固めました。

市民有志が募金を募りすべての戦争犠牲者を悼み二度とこのような悲劇を繰り返さないよう制作した平和の

鐘は「平和の鐘友の会」によって鐘撞き行事が取り組まれてきましたが、高齢化等により友の会が解散した後はピースフェスティバル実行委員会がその役割を引き継いでいます。当協会からも理事が参加しました。

【紫関 伸一】

2025中国映画会 「神の薬じゃない」

＝ 2025年8月24日(日) 富士見市立鶴瀬コミュニティセンターホール ＝

今年の中国映画会は「神の薬じゃない！」(2018年文牧野(ウェン・ムーイェ)監督)でした。午前10時から午後2時からの2回上映し、のべ100人を超える方々にご覧いただきました。

この映画は2014年に実際に起きた事件を基に制作されました。主人公はインドで安価なジェネリック

医薬品を密輸し、多くの白血病患者から慕われていましたが、やがて警察から目をつけられ…。

社会派エンターテインメント作品はその後の中国の医薬行政と業界に大変革をもたらしました。

【藤井 孝容】



➡ (4面から続く)

感想

「強い衝撃と深い感動、残った余韻」 【熊谷 麗】

映画『薬の神じゃない!』を鑑賞し、強い衝撃と深い感動を受けました。

この作品は、実際に起きた



出来事をもとに制作されたとのことで、登場人物たちの苦悩や葛藤が、単なるフィクションではなく現実に存在したということに胸が締めつけられました。高額な薬を買うことができず命の危機に直面する患者たちと、彼らを救おうと奔走する主人公の姿は、医療や社会制度が抱える根本的な問題を鋭く浮き彫りにしていました。観ているうちに、自分ならどうするのかと何度も問いかけられているように感じました。

主人公は当初、利害やお金のために動きますが、患者たちとの出会いを通じて次第に心を動かされ、人の命の尊さを前にして自らの行動を変えていきます。その過程が丁寧に描かれており、人間の弱さや打算、そして他者のために勇気を持って立ち上がる強さがひしひしと伝わってきました。また患者やその家族の姿からも生きたいという切実な願いが伝わってきて、見ている自分まで胸が締め付けられました。

エンターテインメントとしての面白さを持ちながら、社会的テーマを強く訴えかける力を兼ね備えた作品であり、鑑賞後も余韻が長く残りました。改めて「薬」と「命」の重み、そして制度や社会の在り方について考えさせられる、非常に意義深い映画だったと思います。

このような機会をいただけたことに感謝申し上げます。

富士見市ピースフェスティバル2025

～被爆・戦後80年 戦争も核兵器もない世界を～

2025年9月20日(土)～21日(日) 富士見市立鶴瀬公民館ほか

鶴瀬コミュニティセンターホールでは9月20日(土)午前中の記念式典に続いて午後は2024年にノーベル平和賞を受賞された日本原水爆被害者団体協議会代表委員田中熙巳さんの講演がありました。入場者257人で場内は満席となり、急ぎょホールロビーでオンライン視聴を行いました。

市民平和展示企画では2日間にわたって「ヒロシマ平和体験学習」の報告、「日本非核宣言自治体協議会ポスター」の展示をはじめ、「今、核兵器が使われたら」「日本被団協とは?」「核兵器廃絶に向けて日本の果たす役割」などの発表がありました。

その他、放課後児童クラブの子どもや富士見高校生の絵画などの作品を中央図書館で14日間、難波田城資料館で16日間展示しました。

【朝比奈 久男】



▲ 日本被団協代表委員・田中熙巳氏

富士見市国際交流フォーラム2025

＝ 2025年10月4日(土) 市民文化会館キラリ☆ふじみ ＝



今年も協会は国際フォーラムに参加しました。

ふじみ篆刻協会からご協力を頂き、篆刻の作品や歴史の説明パネルなど、合わせて16点をお借りして展示し、フォーラムに参加された皆様に見ていただきました。

日頃接する機会が少ないであろう篆刻に触れ、中国文化の一端を知って頂ける有意義な機会となりました。

【田口 和平】

「学んだ!」「交流した!」第21回交流バスハイク

＝ 2025年10月11日(土) 埼玉県平和資料館、JAXA地球観測センター その他＝

10月11日(土)、恒例の第21回交流バスハイクを実施。小学生3名を含む44名の方の参加がありました。埼玉県平和資料館「埼玉ピースミュージアム」、

JAXA地球観測センター「宇宙航空研究開発機構」では貴重な展示内容を見学したほか、昼食と買い物を組み入れて楽しい交流ができました。

【呉 少青】

感想

「思いを新たにした展示見学」

【篠原 通裕】

10月11日(土)のバスハイクでは、埼玉県平和資料館「埼玉ピースミュージアム」やJAXA地球観測センター「宇宙航空研究開発機構」を見学し、戦争の愚かさや平和の尊さ、そして「宇宙船地球号」としての地球を改めて実感する一日となりました。見学を通じて、国の違いを越え、すべての人が同じ地球に暮らしているという思いを改めて感じました。



▲ 埼玉ピースミュージアムで参加者の記念写真



➡ (6面から続く)

花園フォレストでの昼食のビュッフェやふかや花園プレミアム・アウトレットでの買い物、帰りのバスでのハーモニカ演奏など、終始和やかで笑顔あふれる時間を過ごし、参加者同士の会話も自然と弾みました。こうした行事を通じて、人と人との交流が相互理解

を深め、信頼関係を育みながら、住みやすい地域づくりにつながることを改めて感じます。これまで富士見市日中友好協会の皆さまが育まれてきた温かな交流の輪を、私自身も大切にしていきたいと思えます。

中国料理講習会 ヘルシー蒸餃子

『花素蒸餃 (ファスージェンジャオ)』 に満足の舌鼓

＝ 2025年11月23日(日) 富士見市立ふじみ野交流センター ＝

毎年参加者から好評をいただいている侯紅葉先生の料理講習会は今年も11月23日(日)に行われました。鶴瀬西交流センターが改修工事で休館中のため会場をふじみ野交流センター調理室に移したこともあって、参加者はほぼ定員の19名でした。

メニューは肉を使わず野菜と蛋(卵)、冬粉(春

雨)などを主材料としたヘルシーな蒸し餃子(「花素蒸餃(ファスージェンジャオ)」)に侯先生特製の野菜サラダと小豆粥。紫関会長の差し入れの柿が色取りを添えました。

材料のみじん切り、皮の形成が大変な作業でしたが、今年も、とても和気あいあいの講習会でした。

【古澤 奈々子】



▲ 恒例の全員写真…お腹もいっぱいになり満足そう!!



➡(7面から続く)

感想

思い出に浸った料理教室

【樋口 大二郎】

日中友好協会主催の集いはもちろんのこと、料理教室にも初めて参加させていただきました。中華料理人だった母の作る餃子が何より一番美味しいと思って育った私にとって、今回のメイン食材はこれ以上ないものでした。

調理スタート前の侯先生の実演は、子供の頃、中華

鍋に計りもせず調味料を入れていく母に「計らなくて大丈夫？」と聞く私に向かって「適



▲ 美味しそうに蒸し上がった！！



▲ サラダと小豆粥も完成

た。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。



▲ 先生の手ほどきを受ける参加者

当！」と即答する母との、忘れ得ぬ光景を思い出させてくれました。大人になって自分も料理を探求していく中で、「適当」とは「経験値」の裏返しだと気付くことができました。

侯先生の、あの無駄のない流れるような動きで作り出される、食材の完成形は、まさに芸術品です。大連出身の師匠のもと修行した母と同じように、侯先生にもきっと素晴らしい師匠がいらっしやっただのだろうと想起させられた時間でした。

日中文化交流講座

中国語を学びながら、日本と中国の文化を考えます。
中国語初挑戦の方、大歓迎!!

日時 月3回(火曜日)

☆2025年度は4月7日(火)開講

入門クラス 午後5:00~6:45

初級クラス 午後7:00~8:45

会場 富士見市立鶴瀬西交流センター

会費 月4,000円

入会金 2,500円(日中会員は不要)

コーディネーター 侯紅葉さん

お問合せ 田口 (049-254-5762)



▲ 一番手前が調理中の樋口さん